

福島県PTA連合会会報
第80号_H21.12.10

PTAふくしま

第80号

福島県PTA連合会
編集/調査広報委員会
印刷/泉印刷所

記念講演 「レモンさんのビタミントーク ～今こそ愛と絆の時代!～」



講師

◎ラジオDJ
◎山梨英和大学・大阪大学非常勤講師

やまもと
山本 シュウ氏

《主な記事》

- 相馬大会参加記録 P2～3
- 各種受賞団体等紹介 P4～5
- 日P研究大会 P4
- 小中懇談会、母親代表者会概要 P5
- 事務局より P6

相馬大会を終えて



相馬大会実行委員長

森田 昌幸

相馬大会におきましては、多くの皆様方のご協力のもと、無事大会を終了することができました。まずは御礼を申し上げます。

相馬大会は「地域一丸となったPTA活動により信頼の和を広げよう」をテーマに掲げ、七つの分科会、千五百余名の会員の参加を得て行われました。昨年度の喜多方大会の一日開催からは逆行する二日間の開催だったため、アンケートにはご指摘の内容もありました。しかし、昨年度の「次期開催地代表あいさつ」でもお話ししたとおり、せっかく相馬の地までおいでいただくのだから、「おいしい海の幸も伝統ある相馬の文化も十分味わっていただきたい」という思いで、お迎えいたしました。

さて、この相馬大会の準備は、会議のスリム化を図りながら行ってきました。具体的には、拡大実行委員会は郡Pの会合の時に、市内の実行委員会は市連Pの会合時に、そして、各学校の連絡調整は

市内教頭会の会合時に、と進めてきました。このため、多少連絡の不十分なところはありましたが、大きな問題もなく比較的スムーズに運営することができました。また、相馬市の全面的な協力のもと、公共施設を優先的に使わせていただきました。このため、最新の施設はないものの、七つの会場をコンパクトなエリア内に収め、耐震化問題による会場変更等でご迷惑はおかけしましたが、移動のわずらわしさをおかけしないように配慮することができました。

このように準備してきました大会でしたが、各分科会の話合いは活発な議論が展開され、全体会の記念講演だけでなく分科会の講演も大変好評だったと反省が出されました。これらは、県内各地からご参集くださった会員の皆様、来賓の皆様、そして各関係者の皆様のご理解とご協力のおかげと感謝申し上げます、相馬大会の報告とさせていただきます。

第五十八回福島県PTA研究大会 相馬大会に参加して

■第一分科会 組織運営

相馬市立飯豊小P会長

猪狩 浩 孝

見直そうPTA活動というテーマのもと、前中村一中PTA会長、花塚豪人様をコーディネーターにお迎えし、四名のパネリストの方々から発表がありました。

広瀬小P会長佐藤銀四郎様からは、小規模校単学級のため、大きな問題はなく、今年度から各家庭で読書の日を設定し、家族内のコミュニケーションを充実させているという発表がありました。

さらに、飯樋小P副会長青木弥生様より、児童の教育を教師まかせにするのではなく、保護者としてサポートしていくことが大切であり、子どもたちの望ましい生活習慣形成のためには地域住民の協力も重要であるということでした。

そして、福島二中P会長五十嵐俊道様からは、子育てに手遅れはない、我が子を伸ばすためには環境全体を改善していく必要がある

り、それがPTAの役目だと思ふとのことです。

猪苗代町立吾妻中P会長鈴木義和様からは、P会員数の減少に伴い、P会則の見直しを図り、実情にあった会則に改正した。また、小中連携した事業を実施しているとの発表がありました。

後半は、グループトークキングとすることで、参加者が十グループに分かれて話し合いをしてもらいました。給食費未納問題や、学校の特色を生かした話や、どのようにすれば保護者が、積極的にPTA活動に参加してもらえるか話し



合われました。

■第二分科会 研修活動

相馬市立中村第一中P会長

丹野 吉 男

「家庭の果たす役割から食育を考えよう」をテーマに、新聞記者、フリーライター渡邊美穂先生の講演を開催し、会員四百余名の参加をいただきました。

渡邊先生の講演は、新聞記者時代、毎日起こる事件事故で死と接するうちに、今元気で生きていくことのありがたさに、気付かされたこと。その後「食卓の向こう側」連載を担当することになり、食の現状は、主食である米よりも油と砂糖を摂取していることが分かったそうです。食習慣は小さい頃から積み重ねます。後数年で今度

は彼らが家庭を築く番になります。ある小学校校長の発案による月に一度の「自分で作る弁当の日」を実施、このことを通して、調理技術が身についたことはもちろん、食べ物に感謝、感謝される喜びを味わったそうです。「かわいそうだからやらせない」のではなく、「興味ある時期にやらせる」ことで、子どもの生きる力をつけさせることが出来ます。また親が子どもに残せるもの、その他色々のお話がありました。最

後に台所に立つ子どもを増やすことが、「日本の未来を救う近道」である。という内容でした。私自身も、親が出来る教育について、考えさせられました。

■第三分科会 家庭教育1

相馬市立磯部幼小P会長

宮崎 博 司

第三分科会は「子どもたちが安心して過ごすことのできる環境をいかに確保していくかを考えよう」のテーマのもと、約百二十名の参加をいただき開催されました。二部構成で開催され、前半でお二人の方から提言をいただき、後半ではその内容についてグループトークキングを行いました。

提言一では、福島県相馬警察署生活安全課長の藤田雅氏から「交通事故防止や犯罪に巻き込まれないための取り組み」のテーマのもと、地域の子どもは地域で守り育てることについて講演をしていただきました。提言二では、相馬中央病院看護部長の庄子幸恵氏から「伝染病予防など健康面における取り組み」のテーマのもと、子どもがかかりやすい感染症とその対策について講演をしていただきました。

グループトークキングでは、活発な意見交換がなされました。交通

事故や犯罪に巻き込まれない対策や、新型インフルエンザ対策について各単Pの取り組み状況について意見交換が行われました。改めて家庭での教育や、地域社会との協力や連携の重要性を考えさせられた分科会でした。

■第四分科会 家庭教育2

相馬市立日立木小P会長

上遠野 加代子

相馬海浜自然の家社会教育主事の高橋誠氏をコーディネーターにお迎えし、東館小P会長佐藤裕氏、榎葉北小P会長坂本洋氏、高田中P会長小林隆晴氏、石神中P会長穴澤清信氏のパネリストの方より「家庭のさずなを深める活動」に取り組み、子どもをテレビゲームから引き離そう」をテーマにパネルディスカッション方式で発表していただきました。

ゲームについては頭から禁止するのではなくルールを決めて使用させたり、学校行事やスポ少等に積極的に参加しゲームから離れる時間を作るようにする。

各パネリストの方々より、それぞれの学校で開催される祭りや登校時の見守りや挨拶運動、親子での読書の時間を通し保護者と子どもが同じ時間を共にし、さずなを深めるべく取り組んでおられる

ことを話していただきました。それに伴い子どもとの会話やふれあいを通して日々を過ごすことがとても大事だと感じさせられました。今後は何でも話し合える家庭や学校作りをするように努力しなければなりません。そう感じさせられた第四分科会でした。



第五分科会 健全育成

相馬市立中村第一小P会長

波多野 淳子

第五分科会・健全育成では、「青少年が抱える問題解決のため、家庭や地域の果たすべき役割や責任について考えよう」をテーマに、百五十名の参加をいただき開催されました。

講師の浜児童相談所次長安部郁



子氏に、「①性非行の問題の現状と問題解決のための取り組み、②思春期の子どもへの関わり方」の二つの視点で講演が行われ、問題行動をする子どもたちに通ずるものとして、自尊感情の低さが目立つそうです。「どうせ、私なんか!!」といった感情は、自分を大切にしない。自分を大切にしないから、他人も大切に出来ない。悪循環になります。また、性非行を行う子どもたちは、性行為の知識があっても、自分の体に対する知識がなく、多くの危険にさらされていることが、分らないのでしょうか。今回、安部氏の講演を聞いて感じたことは、思春期に関わらず、

子どもの話を真剣に聞き、大人の言葉を真剣に聞かせる。それが、家庭や地域の果たすべき役割や責任ではないかということでした。人の話をしっかりと聞き訓練をしていこうと思います。

第六分科会 特別支援教育

相馬市立養護学校P会長

加藤 幸子

第六分科会の特別支援教育では、「特別な支援を要する子どもの学校内外での現状を理解しながら、だれもが生きる喜びを実感できる環境作りはどうあればよいか考えよう」をテーマに百十五人の参加者で開催されました。

コーディネーターで相双教育事務所指導主事の熊谷賀久氏の進行で相馬市立養護学校教諭の引地純一氏、日和田小学校PTA会長の安田良裕氏、小名浜第二中学校PTA会長の小名川清彦氏の三氏から具体的な取り組みの発表がありました。

研究協議では、学校における特別支援教育の現状と今後の課題について話し合われました。特別支援学級に限らず、通常の学級に在籍する特別支援を必要とする子どもたちを正しく理解し、支援するために、保護者を適切に後押ししてきる人間関係づくりが大切である

ことが出されました。また、情報の共有化については、子どもたち及び保護者を支援するためには、必要不可欠であり、地域のセンタ―的な役割を担っている特別支援学校や教育事務所を大いに活用し、「地域で共に学び、共に生きる」子どもたちを育てていきたいと話し合われました。



第七分科会 特別課題

相馬市立中村第二小P会長

立花 康稔

第七分科会は「携帯サイトへのアクセスに関する問題」をテーマに、NTTドコモ東北の遠藤恵宏様の講演が行われました。

最初に、「ケータイ利用の現状」について話がありました。現在、

子どもの好奇心につけ込む悪徳業者が多数出現してきているので、リスクを認識し、本当にケータイが必要か、子どもと十分に話し合うことが大切だと思います。次に、「巧妙な手口」についての話がありました。出会い系サイト誘引などの「迷惑メール」がトランプルの始まりなので、身に覚えのないメールは無視し、安易に返信しないことを子どもに理解させたいと感じました。

最後に、「ケータイを安全に使うために」という話がありました。フィルタリングサービスを利用するのが有効だそうで、現在、未成年者のフィルタリングは義務化されています。

今回は、ケータイキャリア会社の講演のみだったので、各PTAの取り組み発表などを交える形式の方が良かったかも、と反省しています。今後も、ケータイの危険性についてPTAで話し合いを持ち、情報交換していくことが非常に重要であると感じました。



晴れの表彰

おめでとう

ございます

一、文部科学大臣表彰優良PTA

◇団体表彰(二団体)

・須賀川市立阿武隈小学校

父母と教師の会

・榎葉町立榎葉北小学校

父母と教師の会

二、日本PTA全国協議会会長表彰

◇団体表彰(二団体)

・伊達市国見町大枝小学校

組合立大枝小学校PTA

・小野町立夏井第二小学校PTA

◇個人表彰(四名)

・金子 雄治 (県P連前副会長)

・日下龍一郎 (同 前副会長)

・檜内 秀司 (同 前副会長)

・森田 昌幸 (同 前副会長)

三、東北PTA連絡協議会会長表彰

◇団体表彰(四団体)

・二本松市立渋川小学校PTA

・二本松市立

下川崎小学校PTA

・飯館村立飯樋小学校PTA

・いわき市立久之浜中学校PTA

日P研究大会みやぎ大会レポート

県P連副会長

松本 一 広

第五十七回日本PTA全国研究大会みやぎ大会が、向き合おう！

まっすぐに 語り合おう！子ども

の未来のために」の大会スローガ

ンのもと、八月二十一日、二十二

日の両日、宮城県各地において開

催されました。二日目の全体会

は、利府町グランディ21で行わ

れ、大会宣言を決議した後、医学

博士・東北大学教授、川島隆太氏

をお迎えして、「脳科学から見た

早寝・早起き・朝ごはんの大切さ」

し、適切な情報処理・行動の制御

力が低下していきます。だからこ

そ、繰り返し学習・考える学習が

大事になってきます。作動記憶ト

レーニングで前頭前野の体積が増

えてきます。読み・書き・計算が

創造力やコミュニケーション能力

の源泉です。

脳の元気の素は、食と睡眠で、

神経細胞はブドウ糖のみをエネル

ギー源としています。睡眠不足は

ミトコンドリアの能力を低下さ

せ、意欲の低下の原因となりま

県P連副会長

佐藤 辰 夫

特別第二分科会は「地域と学校

をつなぐPTAの役割」をテーマ

に、基調講演・対談・シンポジウ

ムの三部構成で開催されました。

基調講演は、茂木賢三郎氏(独立

行政法人日本芸術文化振興会理事

長)による「日本の未来を担う人

づくり」と題し行われました。日

本は経済大国であり福祉大国で

す。生活水準も高く過去六十数年

にわたり平和を享受してきました

た。しかし、現在多くの人々が不

催し、それらを通し基礎の大切さ

を訴えています。「子どもに対し

大人は威厳を。そして駄目は駄目

と、厳しく愛情を持って接するこ

とが大切である」、板東氏は「何

事にも大人も自信を持って接する

ことが大切である」と締めくくり

ました。シンポジウムでは四人の

パネラーが「地域と学校をつなぐ

PTAの役割」についてディス

カッションを行いました。現在、

学校教育現場が厳しくなっていま

す。第一義的には先生が全力でや

らなければならぬが、先生だけ

では限界にきています。PTAは

勿論、地域による支援が重要であ

ること。またこれらの課題に取り

組むための学校支援地域本部の意

義について意見交換されました。

会場からも活発に意見、質問が出

され有意義な分科会でした。また、

改めてPTAの役割、存在の意義

を再認識させられた分科会でし

た。



◇個人表彰(八名)

- ・大竹 明 (県P連前副会長)
- ・室井 君男 (同 前副会長)
- ・氏家 京子 (県P連前母親代表理事)

- ・山崎由里子 (同 母親代表理事)
- ・國府田司良 (同 前理事)
- ・吉田 伸司 (同 前理事)
- ・面川 春男 (同 前理事)
- ・齋藤 修一 (同 前理事)

四、福島県PTA連合会会長表彰

◇感謝状

- ・金子 雄治 前副会長 (以下三十五名)

- ◇団体表彰
- ・飯館村立飯樋小学校PTA (以下二十八団体)

◇個人表彰

- ・荒 智信 (相馬) (以下八十八名)

※全名簿は、県P研究大会相馬大会要項に記載してありますので、ご参照ください。



小・中学校懇談会

県P連母親代表理事 渡辺 さゆり

今年度の小・中学校懇談会は昨年引き続き「ケータイ・インターネットの危険性」をテーマに開催されました。

始めに元県P連副会長の小島雄一氏より、平成二十年度に開催された、県P連研究大会喜多方大会での基調講演、清川輝基氏「『子どもとメディア』問題と青少年教育」を基に、問題提起をしていただきました。日本の子どもたちのメディア接触時間は世界一長く、脳神経回路ができる重要な時期(〇〜二歳)から行われていること、長時間のメディア接触により、筋力・脚力の衰え(いずれも



運動不足が原因)、立体視力の低下、更にはことばの力・コミュニケーション能力の低下等、改めて危惧される内容でした。また喜多方市で取り組みが始まった、「喜多方つ子メディア活用力向上推進事業」立ち上げの話等を聞くことも出来ました。

バズセッションでは、「メディアは否定出来ない、認めながらもどのように関わっていくかが重要」また、鏡石町では六月から始まった「ノーテレビ・ノーメディアデー」の取り組みについての話を聞くことができました。

ケータイについては「親はケータイの機能や危険性について勉強し、子どもの要求に安易にこたえないことが大切」「フィルタリングの更なる活用」「情報モラル教育の必要性」等が出され、学校裏サイトに関しては「各学校ごとに情報を収集し、PTAとして集約し、対処しなければならぬのではないか」等、活発な意見が出されました。

私たち親は、子どもを幼い頃からメディア漬けにするのではなく、いかに良好な親子関係を築き、難しい思春期にはオープンに話し合える、そんな環境を整えてあげることが大切と考えます。危険と隣り合わせのケータイをどう扱うのか、親子で一緒に学ぶこともまた、コミュニケーションの一つではないでしょうか。

郡市P母親代表者懇談会

県P連母親代表理事 蛭田 優子

今年度の母親代表者懇談会は「今、家庭教育を求められるもの」と題し、県教育庁社会教育課の主任社会教育主事の増子清一氏に講話をいただきました。

ご本人の家族や地域の歴史を紹介いただきながら、昔からの慣習や風習の中で大切に育まれて来た世代交代のサイクルが、現代では少子化や晩婚化によって狂ってしまった。子育てのピークと親の介護を同時に迎え苦悩する人が多い。又、核家族化により生や死の体験を家庭でしなくなつた。父がガンで余命宣告を受けた時、家に来てくれるよう頼んだ。皆で苦しみも共有できるように。今もじいちゃんの思い出は家族共通です。と、時代と共に家庭のあり方は変化しても、常にプラス思考で生きる背中を子どもに見せていきたい。とお話をいただきました。

又今回、前県連P理事の氏家京子氏に、県内で蔓延している性感感染症特に十代の異性間で急増のエイズについてお話をいただき、先進国の中でエイズが増加しているのは日本だけ。と聞くにつけ、家庭教育に求められるものはここにもあると、重く受け止めました。



グループごとのバズセッションでは、一つめに、氏家氏からの発信を受け「家庭での性教育」を話し合い、会話を多く持ち性感感染症や行為の結果起こりうることを含め、親子で性の情報を共有することが大切という意見が多く出ました。二つめは、テーマは増子氏の名言を受け、「あなたはプラス思考ですか」女性は体調や回りの環境で思考もプラスやマイナスに揺れ動くが、子も親も生きていけば大丈夫。という究極のプラス思考で、強く前向きに生きる姿を子どもに見せてあげることこそ、私たちが今すぐできる家庭教育なのでは。と笑顔でバズセッションを終わりました。

安全互助会から

たびたびの変更連絡で、担当の先生方には大変ご迷惑をおかけいたしました。お詫言います。

年度途中での変更ですが、保険制度上、やむを得ない変更であることをご理解いただきたいと思ひます。

① 十月の理事会において了承された次年度からの変更点についてお知らせいたします。詳しくは、来年一月下旬に各学校に送付予定の「平成二十一年度福島県PTA安全互助会加入案内」送付の際お知らせいたしますので、ご確認願ひます。大きな変更は次の点です。

② 賠償事故とも、保険金請求者(保護者)宛に、保険会社から直接送付される。③ 保険金請求書は、請求者(保

護者)が保険会社に直接送付し、保険金の給付を受ける。

③ 事故報告書(傷害、賠償とも)は、報告書に、在学・在籍証明をしていただくため、これまでのFAXから郵送となる。各学校の担当の先生方には、保護者からの事故の報告を受け、事故報告書を本会宛に郵送していただくだけとなります。

◎ これまで、土・日などの休業日の部活動については、学校管理下として本制度の対象外としておりましたが、二学期始めにお知らせした通り、学校管理下外として、本制度の対象とすることとなりました。

◎ 事故報告後、一定期間(約三ヶ月)を経過したものについて、保険会社から請求の有無の確認の連絡が保護者宛に届けています。保護者から問

ふるって応募ください

◇子ども災害事故防止習字・ポスター展

実施要項を各学校に送付しておりますが、今一度ご確認ください。多数のご応募をお待ちしております。

- ・ 応募締切 平成22年1月末日
- ・ 作品送付先 県PTA連合会事務局

◇学校新聞、PTA広報紙コンクール

各学校PTAでは、それぞれ特色ある新聞、広報紙を発行されていることと思います。ふるって応募くださいますようお願いいたします。

- ・ 応募締切 平成22年3月末日
- ・ 送付先 福島民友新聞社事業局「県小中学校新聞・PTA広報紙コンクール係」

編集後記

新型インフルエンザの爆発的な流行が危惧される。手洗い・うがいの励行、マスクの着用はもちろんのこと、感染の疑いがある場合は、早めの受診が何よりも必要である。これから厳冬期を迎えるが、大流行にならないことを願うばかりである。

(T・H)

年末年始の事故防止を

「まだいるの 飲んで 乗る人 飲まず人」

のスローガンのもと、「年末年始の交通事故防止県民総ぐるみ運動」が実施されています。

● 期間

平成二十一年十二月十日から二十二年一月七日まで

● 運動の基本

子どもと高齢者の交通事故防止

● 運動の重点

- (一) 飲酒運転の根絶
- (二) 夕暮れ時と夜間の交通事故防止
- (三) 全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底

共栄火災

あしたの笑顔、ひとりひとりに。

今日よりあしたが素敵であるために。
 大きな安心に包まれて、笑顔がもっと咲き誇るために。
 わたしたちは一歩ずつ前に進んでいきます。
 街に、暮らしに、あなたにスマイルを。

スマイル、前進！ 共栄火災



共栄火災海上保険株式会社 www.kyoeikasai.co.jp

福島県PTA連合会 (TEL 024-545-5982 FAX 024-545-5990)

《提携損保》共栄火災海上保険株式会社 〒960-0231 福島市飯坂町平野字三枚長1-1 JA福島ビル2F TEL 024-554-3006(代) FAX 024-554-3025